

医学系研究に関する情報公開文書

| | |
|---------|--|
| 研究課題名 | R-ISS Ⅲ期多発性骨髄腫に対するタンデム自家移植の有効性の検討 |
| 研究責任者 | 血液内科 副部長 塚田 信弘 |
| 研究機関名 | 日本赤十字社医療センター |
| 研究目的と意義 | <p>研究の概要: 2006年以来、新規薬剤と呼ばれるボルテゾミブ(ベルケイド)、サリドマイド(サレド)、レナリドミド(レブラミド)の登場により多発性骨髄腫の治療成績は向上しています。さらに、2015年にはポマリドミド(ポマリスト)、パノビノスタット(ファリーダック)が、2016年にはカルフィルゾミブ(カイプロリス)、エロツズマブ(エムプリシティ)が、2017年にはイキサゾミブ(ニンラーロ)、ダラツムマブ(ダラザレックス)、そして2020年にはイサツキシマブ(サークリサ)が登場し、治療成績は年々向上しています。一方で診断時の改訂国際病期分類(R-ISS)がⅢ期に該当する患者さんの治療成績は自家移植を行ったとしても十分とは言えず、当院においてはR-ISS Ⅲ期に該当し、2回の自家移植に耐えうると判断された患者さんに対し、2回の自家移植を短期間(3-4ヶ月間隔)で行うタンデム自家移植を行う方針としています。今回私たちは、当院においてタンデム自家移植を受けた多発性骨髄腫の患者さんの治療効果、副作用等について後方視的研究を行うことを計画しました。</p> |
| 研究方法 | <p>対象: 当センターにおいて2019年8月~2020年12月にタンデム自家移植を受けた多発性骨髄腫の患者さん3例を対象としています。</p> <p>研究の方法: 診療録をもとに、患者さんの背景、治療成績、副作用等を解析します。解析結果については、学会および論文での発表を予定しています。</p> <p>倫理的配慮: 個人情報の保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は下記までご連絡下さい。参加を希望されない場合でも不利益を被ることはありません。</p> |
| 問い合わせ先 | <p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者: 塚田 信弘 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p> |